

## [横浜ロイヤルパークホテル]

# 素材の良さに着目し、徹底したカスタマイズで独自の宴会システムを構築

(株)ユニコーンの婚礼・集宴会総合支援システム「BVManager」の特長のひとつは、他社製品を含めたホテル内のさまざまなシステムとの親和性の高さ。それを最大限に活用し、トータルシステムを構築したのが横浜MM21地区の人気ホテル「横浜ロイヤルパークホテル」である。

## まずカスタマイズありき、でオリジナルのシステムを完成

同ホテルが「BVManager」により婚礼宴会部門の管理を開始したのは2002年10月。実は、すでにその2年前から同システムに切り替えるという話があったのだが、当時の同システムは台帳管理のシステムが中心。01年から5カ年計画で、ホスト型からPCを活用して個々の業務ごとに切り分けた分散型のホテルシステムへのリニューアルを考えていた同ホテルにとっては、宴会システムであろうと営業や調理などの部門とシステムレスに連動するものでなければ意味はないことから、即時導入を控えたのである。

「ただ、BVは完全なオープン型DB（データベース）で、素材としては非常に優れていました。そこで我々のホテルに合った仕組みを一緒に開発していただくことになったのです」

と、営業企画情報システム課の佐藤雅幸氏は振り返る。要するに、パッケー



(右) 横浜ロイヤルパークホテル  
営業企画部情報システム課課長代理  
佐藤雅幸氏

(左) 同社 ウェディング  
プロデューサー 粟生 豪氏

ジソフトの一部をカスタマイズするのでなく、「まずカスタマイズありき」からスタートし、完全にオリジナルの宴会システムを構築しようと考えたのだ。

ゼロベースからの開発ではないとはいえ、非常に細かい部分までつくり込むわけだから作業量は膨大。また、ちょうどこの頃から婚礼がパッケージ型からオーダーメイド型にシフトし、挙式予定者の要望が多様化。これに対応するには、調理、会場設営、衣裳室、美容室、写真室などのテナントや他部門との連携が不可欠なだけに、誰でもわかりやすく、使いやすい仕組みづくりが必要だった。

非常に難易度の高い要求だったが、ユニコーンでは東京事業本部だけでなく大阪本社を含めた総動員体制で取り組み、開発合意から約1年ほどで本格導入することが可能となった。同ホテルを担当するユニコーン情報システム事業部の山上浩司氏はこう語る。

「開発内容をオープンにしているということでしたので、その後のバージョンで実装した機能はいくつもあります。BVの可能性は横浜ロイヤルパークホテルさんが広げてくれたと言っていますね」

## BVManagerのデータを生かすSFAも稼働

オーダーメイド型の婚礼プランの場合、各部門の担当者は予定者と打ち合わせを行なうごとに、情報を直接入力していく。従来は帳票でのやりとりだったから時間もかかるし、照合チェックも大変だった

が、BVManagerはそのような煩雑さを一気に解消した。当時同ホテルの開発チームに加わり、現在はウェディングプロデューサーを務める粟生豪氏は業務の質が変わったと述べる。

「雑務がなくなった分、より細やかな対応ができますし、新規開拓の余裕もできる。従来のように紙の流れだけでオーダーメイド型婚礼に対応していたら、と考えるとぞっとしますね」

導入から3年を経過し、婚礼・宴会の顧客データがある程度蓄積された段階から、同ホテルはSFA（営業支援システム）の開発に着手。BV Salesをベースに約1年間かけてシステムを構築し、この7月1日から稼働を開始している。SFAは当初から計画していたもので、これをもって同ホテルのトータルシステムは完成したのである。

予約、手配情報などを集約表示。見やすい画面づくりも同システムならではのもの。



同ホテルを担当する(株)ユニコーン情報システム事業部山上浩司氏